

人と文化の流れが織りなす創造の場を、みなさんと共につくります

新しい文化を個人個人が創造していく、選択性の高い場所

複合施設ができるのは、東日本大震災から15年以上が経過する年です。何かを取り戻そうという方、新たな何かを始めようという方、ただ静かに何かに触れたい方など、それぞれのペースで自由な形で「自分の文化」を創造していき、選択性の高い場所を目指します。独立性をもちながら、どこかで他者とつながっていただける緩やかな関係性を有する空間です。

心地よい、自然と建築の中間性を持った場所

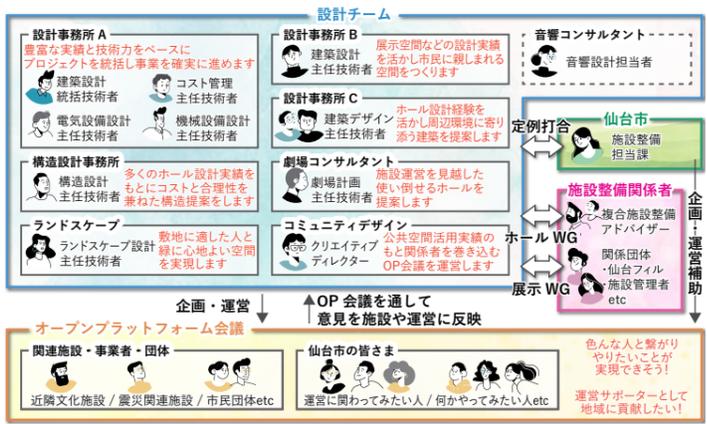
周囲の自然の豊かな環境、まちの骨格を丁寧に読み解き場所をつくっていきます。目的をもって訪れるだけでなく、目的がなくてもいつでも誰でも気軽に立ち寄ることのできる、公園のようにみんなに開かれた心地よい空間を目指します。

1. 大切な事業の実現性を最大化する

豊富な実績と様々な事業手法経験をもつ仙台拠点の設計チーム

- 仙台に拠点をもつ事務所が中心となり、仙台市様はじめ様々な関係者との対話を重ねながら、設計から運用までともに創りあげていく設計チームをつくります。
- 災害メモリアル施設や複合用途公共施設の実績が豊富な事務所、ホールや展示空間の実績を有する事務所、ランドスケープアーキテクト、劇場コンサルタント、クリエイティブディレクターが設計チームを構成し、それぞれの専門性を活かし着実に業務を進めます。
- 公共空間の活用や公民連携の知見が豊富なクリエイティブディレクターが中心となり、関係者みんなで創るオープンプラットフォーム会議(OP会議)を企画・運営します。
- 様々な事業手法(従来方式、PFI、ECIなど)実績のある設計チームが建設資材高騰などの社会情勢の変化にも柔軟に対応し、本事業の実現性を高めます。

設計を進める上で特に留意すること

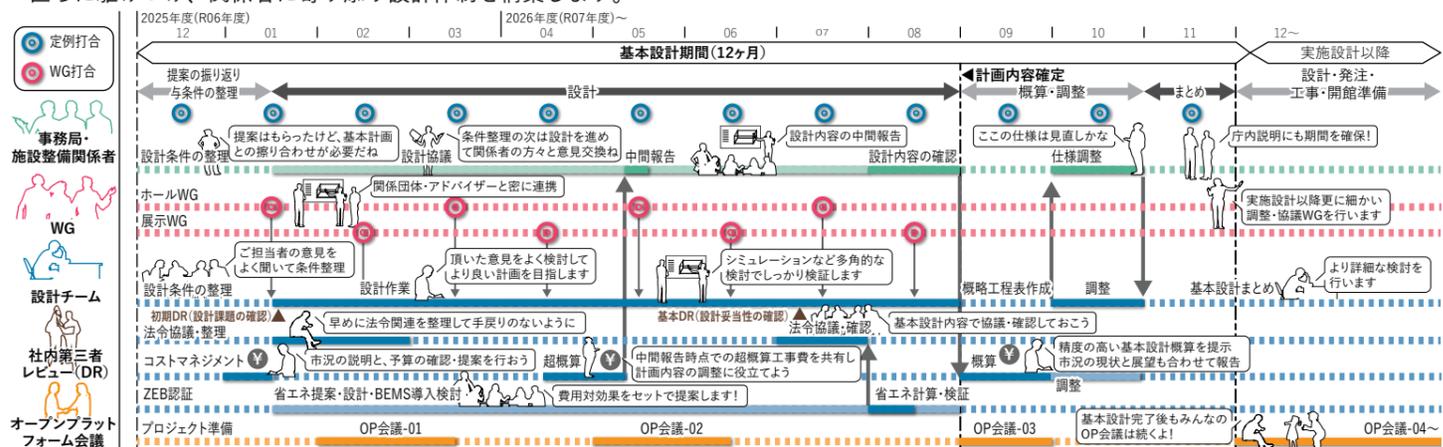


設計者としてのコスト管理と市場調査の両輪により事業を実現

- 昨今、公的指標と市場の差異による工事不調が多く発生しています。設計者による概算算出に加え、他業務でのノウハウを活かした事業者ヒアリングなどを実施することで、本事業の実現性を高めます。
- 着手時概算として予算目安を工事種目ごとに定め、スペック決定の物差しとします。また中間報告段階で概算工事費を算出し、実現性の高い予算策定と経済設計の方向を示します。
- 基本設計概算は、主要数量の算出と専門業者見積取得により精度を高め、また概算後の仙台市様との調整期間を十分に確保します。

検討課題に応じた対話型設計プロセスと徹底した工程管理

- 最初に施設整備関係者と提案の振返りを行い、与条件とプロポーザル提案の擦り合わせを行います。
- 設計定例打合せとは別に課題に応じた関係者によるワーキンググループ(WG)運営(ホールや展示空間など)により、様々な関係者と密に対話を重ね、要望を整理・反映します。
- 定例打合せでは前回課題・次回課題とマイルストーンの確認を必ず実施し、確実な進捗管理を行います。急な対応にも仙台事務所から直ちに駆けつけ、関係者に寄り添う設計体制を構築します。

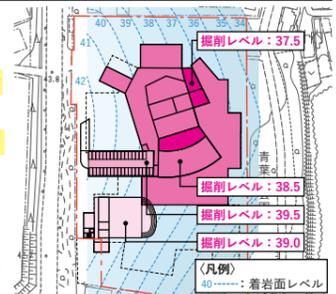


2. 青葉山の地形、気候になじませることで合理的につくる

コスト縮減に関する提案

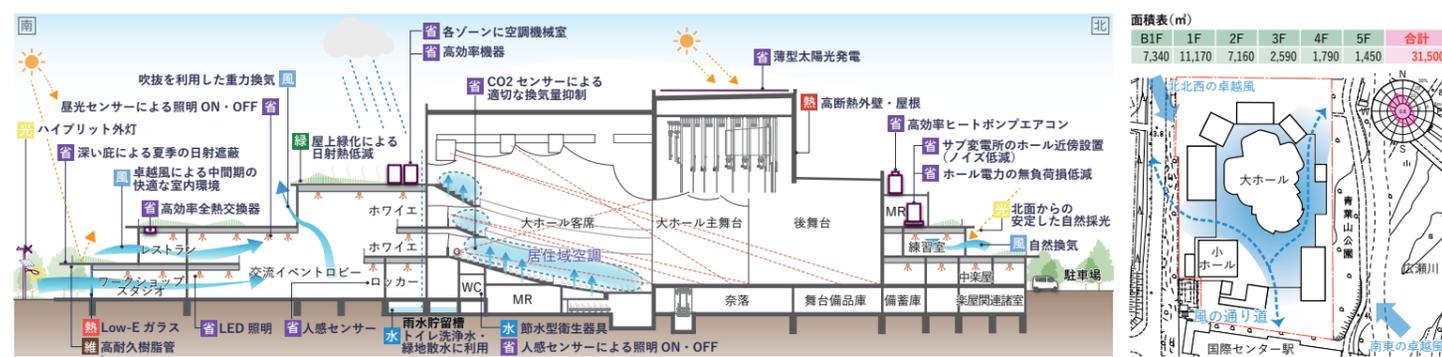
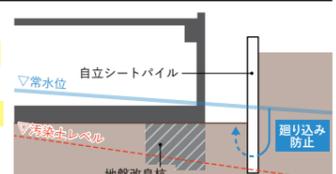
土壌汚染土の処分を最小化し、適切な地盤支持力を得る基礎形式

- 土壌汚染の可能性のある竜の口層の着岩面レベルを考慮して地下階を設定します。また、地下階部分はマツトスラブを採用した直接基礎形式とすることで、可能な限り汚染土掘削をなくし、処分費を最小化します。
- 高い地盤支持力を有する地盤に沿った配置とFLレベルの設定、直接基礎と改良杭基礎の合理的な組合せによりコストを縮減します。
- 「しま」ごとにバランスよく掛けられた耐震要素により建物全体で高い耐震性を確保し、段丘テラスや屋根は軽快な鉄骨造とすることで空間の自由度と経済性を両立します。



高い地下水位を合理的に掘削する方策

- 掘削レベルを浅くすることで、可能な限り自立シートパイルを山留に使用します。不透水層を設計段階で確認し、水の廻り込みを防止する最適高さで計画します。



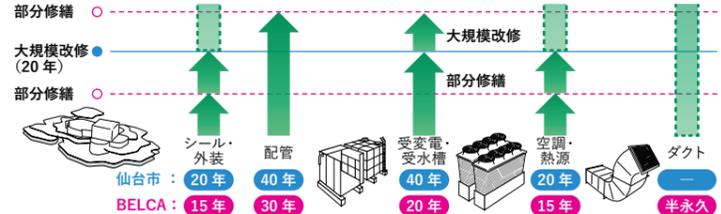
面積表 (㎡)	B1F	1F	2F	3F	4F	5F	合計
	7,340	11,170	7,160	2,590	1,790	1,450	31,500

3. 運営面も考慮し、永く使い続けられる施設をつくる

将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

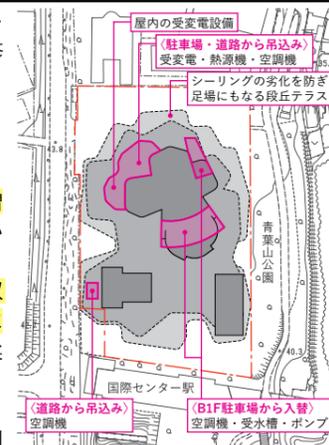
設備ごとの更新時期を考慮した最適設計

- 設備機器ごとの更新時期のズレを考慮し、部分修繕が可能なバックアップシステムを構築することで、施設の閉館を最小化します。
- ホールの空調機械室や電気室など、大型機器の設置される設備室は西側道路、駐車場に面して配置し、機器搬出入を容易にします。
- 熱源機は複数台に分割することで、負荷に応じた省エネ運転を可能にしながら、機能の全停止なく順次更新できる計画とします。
- 中央監視設備のオープンシステムプロトコルの採用により、将来の多様なメーカー仕様の通信に対応できるシステムを構築します。



手入れしやすくフレキシビリティの高い建物づくり

- 段丘テラスは直射日光遮蔽でシーリングの劣化を防ぎ、大規模改修の際には足場設置の地盤ともなって仮設コストを抑制します。
- 受変電設備は屋内型とすることで、長寿命な電源確保を実現します。
- 受変電、室外機スペースは将来増設スペースを確保し、建物の使い方の変化にも対応させます。
- 設計段階では、設備シャフトと収納スペースを隣接させ、更新時に予備スペースとして活用できる柔軟性の高い計画を行います。
- 屋外配管に高耐久樹脂管を採用し、職人不足を解消する施工工間の削減と設備の長寿命化を両立します。



4. 文化芸術の総合拠点・災害文化の創造拠点として、つながりをつくる

全ての関係者を巻き込むオープンプラットフォーム会議

- OP会議は市民や様々な関係者が、複合施設でやりたいことや関わり方を考え、実現するための機会と仕組みです。設計時から開館まで継続して行うことで、利用者コミュニティを形成し、運営パートナーや地域文化活動の担い手を育成していきます。

オープンプラットフォーム会議でつくる人と文化のネットワーク拠点

- OP会議を重ねるごとに、施設に関わる人々や周辺施設・関連施設とのネットワークが形成され、仙台市の文化芸術や災害文化の拡張・活性化につながります。設計プロセスを常に見え化する取組みでもあります。